



カントリーレポート ～サウジアラビア～

全11ページ

第49回 中東協力現地会議

令和8年8月27日

駐サウジアラビア大使 森野泰成

在サウジアラビア日本国大使館



安定的統治

2015年、サルマン国王就任(現90歳)。2017年、ムハンマド皇太子(MbS)兼副首相兼国防相就任(現40歳)。2022年、皇太子は行政のトップ(首相)に就任し、同時に実弟のハーリド王子が国防大臣に就任(現36歳)。異母兄のアブドルアジーズ王子はエネルギー相に2019年就任(現65歳)。



Vision2030

2016年、国家戦略「サウジ・ビジョン2030」を発表。豊富な石油資源(世界最大級の原油埋蔵量、石油生産量及び輸出量)による収入をベースに、国民の生活向上(メトロや高速道路の整備、住宅環境の改善や娯楽・スポーツ振興、国内産業育成、観光促進等)を図りつつ、石油依存からの脱却・経済多角化による国家発展を目指す。



課題

国家財政が原油収入の変動に影響されやすい点。
サウジの財政均衡価格は1バレル80～100USドルとされる。
人材育成。

サウジアラビア 基礎データ (2025年)

国土	215万km ² (日本の約5.7倍)
人口	3,530万人 (うち自国民約2,000万人)
GDP	1兆2,770億US\$ (47,890億SAR)
一人あたりGDP	34,537US\$
GDP実質成長率	4.5%



サウード王家発祥の地、ディルイーヤ(ユネスコ世界遺産)

Vision2030の構成

1

活気に満ちた社会

観光振興、文化・娯楽・スポーツ振興、教育改革、ヘルスケアの拡充等

2

繁栄した経済

中小企業振興、女性の労働参画、公共投資基金増資(1,600億ドル→2兆ドル以上)、再エネの推進等

3

野心的な国家

人的資本開発、財政規律の見直し、歳入多角化の推進、ボランティア振興等

Vision2030：改革は「第三フェーズ」へ

Vision2030の進捗 | 2025年



93%

KPIが年間目標を
達成・ほぼ達成

測定対象：390指標
(309達成、52が85~99%)



90%

施策が
完了・On Track

全1,290施策
(225完了、935 On Track)

市場・産業の多角化



非石油輸出

1,660億ドル

非石油部門の競争力拡大
民間のGDP寄与



51%

民間主導の経済構造へ

投資・事業環境



海外からの投資
(FDI、025年上期)

465億ドル

海外企業からの資金流入
SMEのGDP寄与



22.9%

中小企業の裾野が拡大

人材・社会基盤



大卒者就業率
(6か月以内)

43.3%

30年目標：世界5位

医療サービスカバー率



97.5%

生活基盤の安定

2016-2020

Phase 1 | 改革基盤の構築



改革の
仕組み整備

- ✓ 制度・政策を抜本改革
- ✓ 政府能力の強化・デジタル化
- ✓ Vision Realization Programを設置

改革を実行する“エンジン”を構築

2020-2025

Phase 2 | 改革の加速・具体化



改革の
拡大

- ✓ 投資・プロジェクトの加速
- ✓ National Strategiesの展開
- ✓ 成果が見え始めるフェーズ

改革を広げ、具体的な成果に結びつけた期間

2026-2030

Phase 3 | 成果の持続・深化



成果の
持続・深化

- ✓ 改革・PJの着実な実行
- ✓ 投資効率・リターンの最大化
- ✓ レジリエンスの強化

成果の定着と、次の成長を準備

Vision2030は10年を経て、改革を広げる段階から成果を定着させる段階へ

成長ドライバー：Vision2030の成果が実態経済に表れ始めている

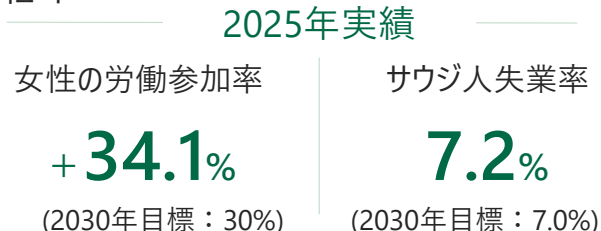
非石油経済の拡大

石油以外が経済成長を牽引し、構造的な多角化が進展



労働市場・社会改革の進展

女性の活躍拡大と失業率の低下



政府・PIFによる大型投資

政府主導が経済転換の初期エンジン

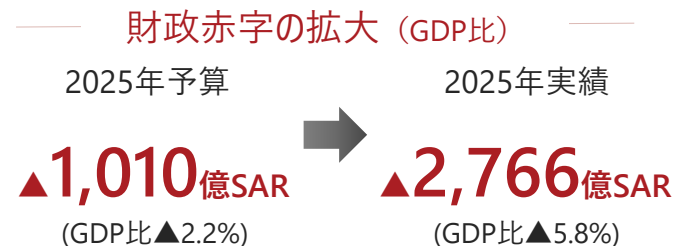


- ・ Giga Projects、インフラ整備
- ・ 観光・エンタメ・物流などが国内需要を牽引
- ・ 雇用創出とサプライチェーン発展

次の成長への課題：持続可能な成長に向けた構造的な転換が必要

石油収入の変動リスク

油価、生産量に左右される政府財政

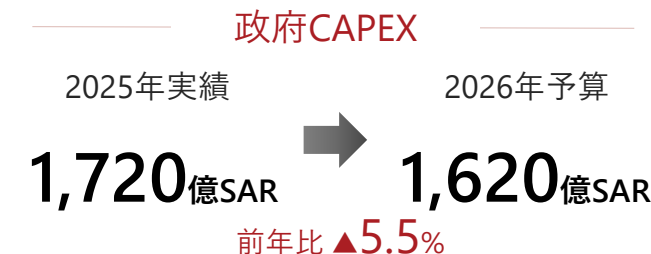


大型プロジェクトと財政負担

「投資拡大」から「選択と集中」へ



高水準の政府・PIF投資を維持する一方で、案件の優先順位付けを実施

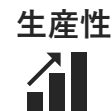


民間主導への転換

民間投資・FDI・生産性・人材育成が鍵



民間投資
民間投資の更なる誘発



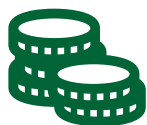
生産性
労働生産性の向上



人材
高度人材の確保・育成

多角化は進展する一方、持続的成長には民間投資・生産性・人材面が課題

これまでの成果

運用資産残高
(AUM)

\$ 900bn+

2015年比 6倍超

サウジ非石油GDPへの
累積貢献

\$ 342bn+

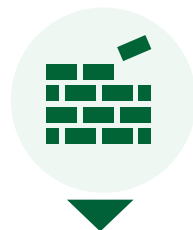
'21-25累計
経済多角化に貢献民間セクターへの
投資

\$ 157bn

'20-24累計
民間成長を支援

2026-2030戦略：Value Realization Phase

FROM BUILDING



TO OPTIMIZING

資産・事業価値の
最大化へ

FROM SECTORS



TO ECOSYSTEMS

個別産業育成から
統合エコシステムへ

FROM PUBLIC

TO PRIVATE
LEADERSHIP

PIF主導から民間へ

戦略に沿った直近の動き

Space Xへの大型投資



- ・保有額 約263億ドル
(2026年6月末時点)
- ・宇宙・防衛通信分野への
戦略投資の拡大
- ・IPO前から一部保有

2026年6月

米輸出入銀行(EXIM)とのMoU



- ・PIF案件に最大150億ドルの
長期金融枠
- ・先端技術・航空宇宙・インフラ等
で協力拡大
- ・米国製品・サービス調達を後押し

2026年8月

米ゲーム企業(EA)買収



- ・買収価格 550億ドル
- ・ゲーム・eスポーツ委等の
成長分野を強化

※Silver Lake(米)と共同で買収

2025年9月

PIFも「つくる・広げる」から「価値を高め、民間を活用する」段階へ

エネルギー多様化

原油・ガス



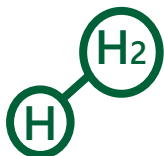
- ・世界有数の産油国
- ・原油生産量：日量約900万～1,000万バレル（世界供給の約1割）
- ・生産余力を活かしOPEC主導、油価の安定
- ・ジャブラガス田等を通じ天然ガス供給を拡大（国内需要を優先）

再生可能エネルギー(2030年再エネ50%(130GW)を目標)



- ・太陽光を中心に再エネ案件形成を急速に拡大
- ・2025年末の稼働容量：約12.5GW
- ・2025年に新たに締結したPPA：20.2GW

水素・アンモニア



- ・世界最大級のグリーン/水素/アンモニア製造プラント（NGHC）
- ・グリーン水素：最大600トン/日
- ・グリーンアンモニア：最大120万トン/年
- ・試運転開始：2027年1月予定（全量輸出向け）

原子力



- ・2025年11月のMbS訪米時に交渉妥結を発表
→ 米国と原子力の平和利用協力協定に署名（2026年7月）
- ・原子力を新たな電源の選択肢に加えるかが焦点
（UAEはエネルギー需要の25%を原子力が占める）

サウジとUAEの戦略の違い



サウジアラビア

VS



UAE

- | | |
|--------------------------|--|
| ● OPEC連携 | ● 2026年5月OPEC脱退 |
| ● 価格・市場安定を重視 | ● 短期での残存利益優先
（ADNOCは27年500万バレル/日目標） |
| ● 財政収入拡大のため
石油収入の安定化 | ● 非石油セクター成長により
石油収入に頼らない財政収入が安定 |
| ● イラン情勢踏まえた
供給の強靱化が重要 | ● 自国の強靱化を図る |

サウジは原油大国の強みを維持しながら、野心的に再生可能エネルギーも導入



国防 | 直接関与を回避、忍耐強い対応

- ・ 米国の攻撃にサウジ領域を使用させない
- ・ イランの攻撃に対して防衛に徹する。
↳ 忍耐強い対応



外交 | 外交的解決と地域連携の主導

- ・ 米国との連絡（2025年に両国首脳が相互訪問した関係）
- ・ GCC、エジプト、ヨルダン、トルコ等との緊密な連絡
- ・ トルコ、パキスタン、エジプトとの四者協議を立ち上げ
- ・ パキスタンの仲介を支持 → 60日間停戦合意
- ・ イランとの国交を維持、特に外相間で連絡を取り合う
(イランのプロキシ政策に深刻な懸念を示しつつ、プロキシの武装解除を主張。
「互いに隣国である」との認識)



ホルムズ海峡

- ・ 2月28日以前の状態への回復を主張
- ・ 航行の正常化、安全確保を重視



イエメン（ホーシー派）

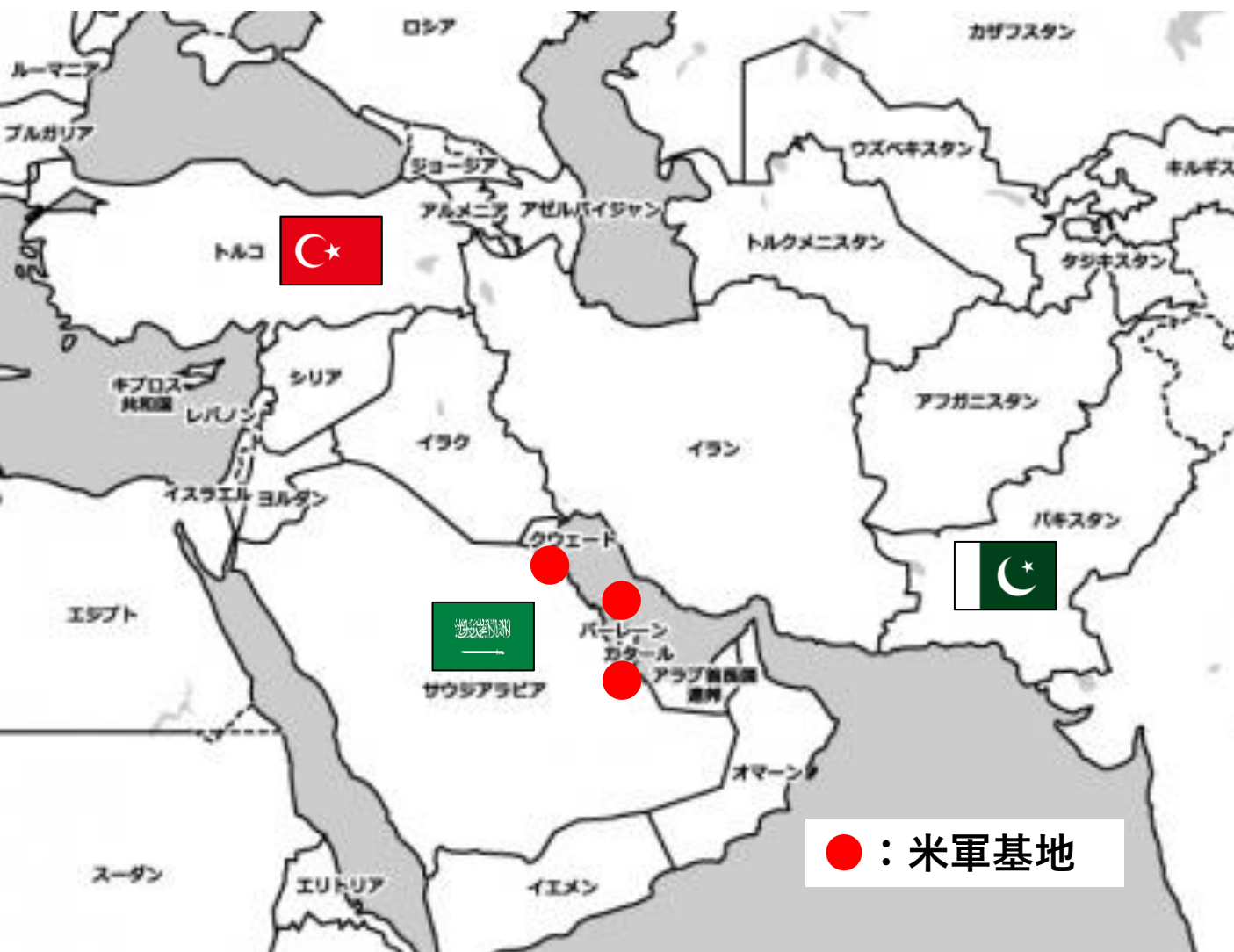
- ・ 安全保障上の直接の関心を有する
- ・ ホーシー派の増長を容認しない
- ・ UAE支援勢力に対しても断固たる対応



パレスチナ

- ・ 二国家解決を支持
- ・ イスラエルのパレスチナ占領政策を懸念

地域連携が安定回復を主導



湾岸地域の米軍基地 () 駐留兵力数

- ・クウェート(約10,000人)：キャンプ・アリフジャン。アリ・アル・サーレム空軍基地
- ・バーレーン(約4,500人)：第5艦隊
- ・カタール(約11,000人)：アル・ウデイド空軍基地



メッカ共同防衛協定

- ・2026年8月7日、サウジアラビア・パキスタン・トルコと締結
- ・地域の安全保障と安定の維持に貢献し、共同抑止力の効果を強化



ホルムズ海峡

- ・米国の対イラン海上封鎖
- ・英仏主導「MMM：Multinational Military Mission」（議論の段階）



バブ・エル・マンデブ海峡、紅海、アデン湾

- ・サウジ主導 多国間海洋防衛連合（MMDC）
参加国(15)：サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、パキスタン、トルコ、エジプト、ヨルダン、イエメン、バングラデシュ、ナイジェリア、スーダン、ジブチ、ソマリア、モルディブ
- ・EU主導「アスピデス作戦」
- ・連合海上部隊（CMF）

米国との協力を軸としつつ、地域パートナーとの（又は多国間）連携で抑止力を補強

経済・財政の実績

Aramco 業績

Q2調整後純利益

334億ドル

(前年比+33%)

Q2売上高

1,391億ドル

(前年比+28%)

・東西パイプライン、貯蔵設備、輸出港を活用し、生産・輸出を維持
 ・他の湾岸諸国と違い、東西に輸出港を持つことの強み

政府財政状況

財政赤字

Q2歳入

3,388億SAR

(前年比+12%)

Q1

1,257億SAR

Q2

→ 343億SAR

内石油収入：

1,851億SAR(約55%)

・H1累計赤字：1,600億SAR
 ・石油収入増により大幅改善

国内経済・投資の継続 (2025 H1対比)

インフラ・運輸支出

+21%

大型開発・インフラ投資継続

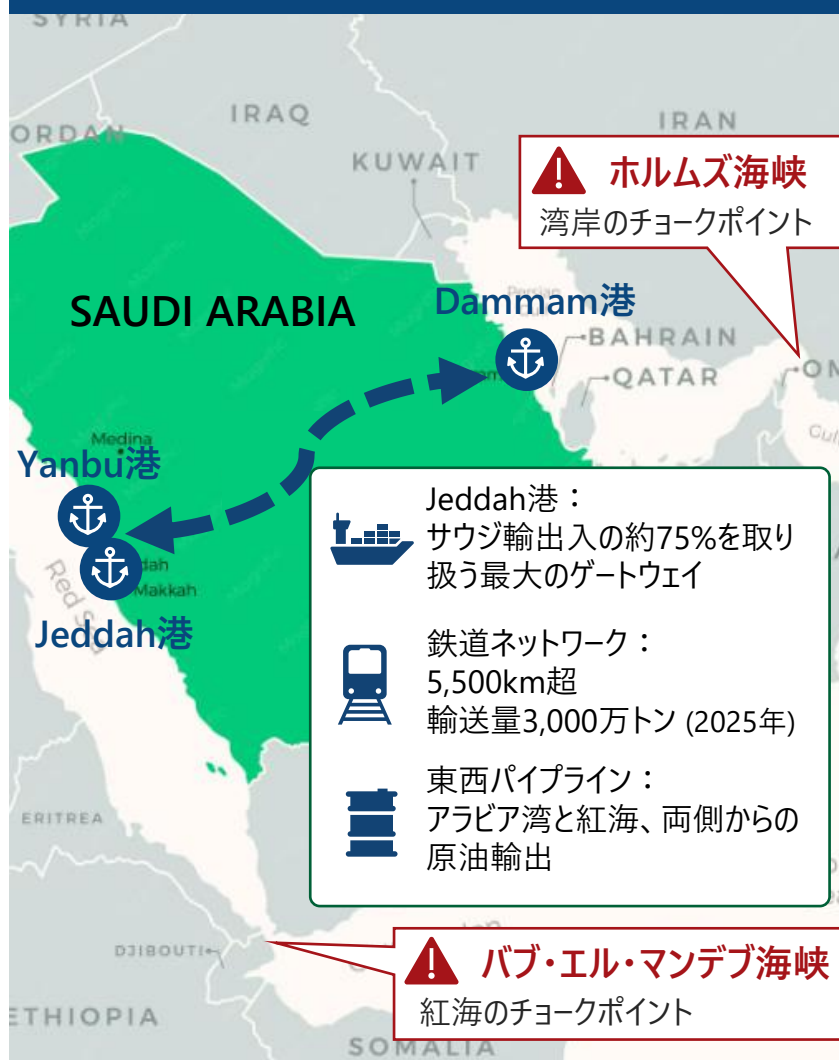
医療・社会サービス支出

+10%

社会基盤への投資継続

IMFの評価 (7月)：イラン情勢を受けても、サウジ経済は「強靱である」が、高い不確実性がある。経済成長率は、2026年は1.7%に下がる見込みだが、ホルムズ海峡が正常化すれば、2027年は5.5%と予測。マクロ経済安定性を保持することを勧告。

有事を支えた東西インフラ・物流ネットワーク



顕在化した戦略価値

1

二つの海へのアクセスがもたらす
ルートの多様性・選択肢の確保



- ・紅海とアラビア湾の両方に主要港有することで、海上輸送の選択肢を確保
- ・不測の事態に対応可能

2

東西を結ぶ国内物流網の
レジリエンス価値が向上



- ・鉄道・道路ネットワークにより陸上輸送を強化
- ・有事におけるサプライチェーンの強靱性・安定性を確保

3

GCC向けの代替輸送ルートとして活用



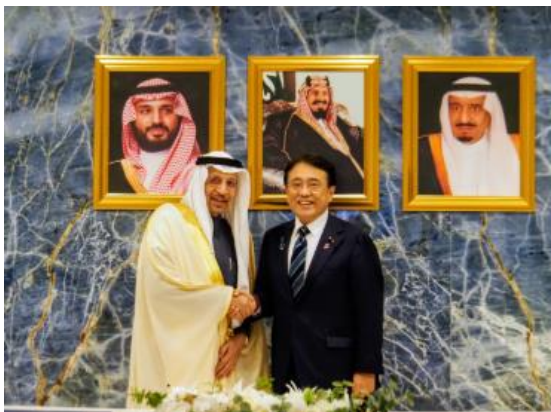
- ・紅海側港湾を活用したGCC向け陸上輸送が拡大
- ・Jeddah港のみでなく近隣Yanbu港なども活用

レジリエンスを高める方向（非石油経済強化と原油の安定供給）

2026年の主な政府要人往来・対話

1月11日

赤澤経産大臣 × ファーレハ投資大臣
日・サウジ閣僚投資フォーラム



- ・日・サウジ閣僚投資フォーラムに出席
- ・エネルギー安全保障及び経済協力を推進
- ・経済関係の更なる発展に向けた意見交換

4月23日

高市総理 × MbS皇太子兼首相
日・サウジ首脳電話会談



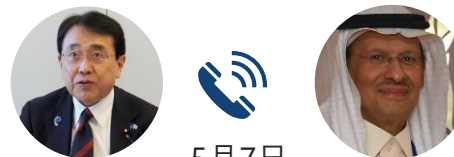
- ・イラン情勢への対応
- ・ホルムズ海峡等の航行安全の確保
- ・原油の安定調達
- ・eスポーツ・ゲーム、宇宙、AI技術、投資の協力
- ・2030年リヤド万博に向けた協力

5月4日

赤澤経産大臣 × ファイサル外務大臣
サウジアラビア訪問



- ・ジッダにてファイサル外務大臣と会談
- ・原油等の安定供給に向けた協力



5月7日

赤澤経産大臣 × アブドルアジーズエネルギー大臣
・共同タスクフォースの設置、共同声明

8月19日

茂木外務大臣 × ファイサル外務大臣
第3回 外相級戦略対話



- ・中東安定化の為の連携
- ・ホルムズ海峡の自由で安全な航行確保
- ・パワーアジアの下での連携
- ・二国間関係強化に関する意見交換

エネルギー安全保障、サウジビジョンへの協力（重要インフラ、技術、文化等）

10 日サ経済：長年にわたり経済発展を支えてきた信頼できるパートナー

①貿易：重要パートナー

エネルギーの安定供給と日本製品・技術の提供を通じ、
双方の経済発展を支える重要なパートナー

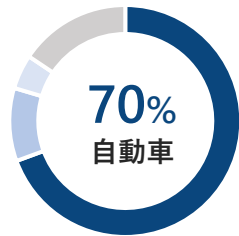
サウジ→日本

977億SAR
(約4兆円)



日本→サウジ

382億SAR
(約1.5兆円)



貿易総額
約1,359億SAR
サウジ貿易収支
+595億SAR

②投資：産業基盤の構築を支援

日本企業による大型投資・JVは、
サウジの産業立ち上げ、長期的な発展を支援



大型投資・JVによる産業基盤構築

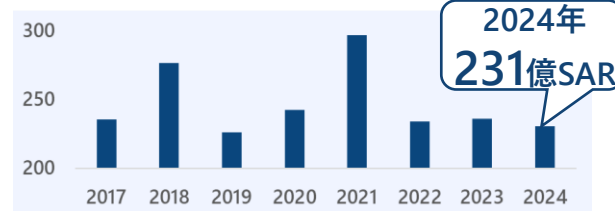
- ・石化・素材・鉄鋼・インフラ等の分野での大型投資
- ・サウジ産業の立ち上げと発展に大きく貢献



長期的な資本参加とパートナーシップ

- ・長期的な資本参加を通じ、安定的な事業を推進
- ・現地企業、政府系との強固なパートナーシップ

日本からの
FDIストック
米・英・仏・UAE
に次ぐ5番手
単位：億SAR



③信頼：長期的関係で築いた高い信頼

高い品質・技術力と長期的な事業継続、
人材育成を通じて、日本企業はサウジから高く評価



高い品質・技術力への信頼

- ・高品質な製品・技術・操業ノウハウを提供
- ・安全・安定操業やメンテナンスでの高い信頼



人材育成・能力構築への貢献

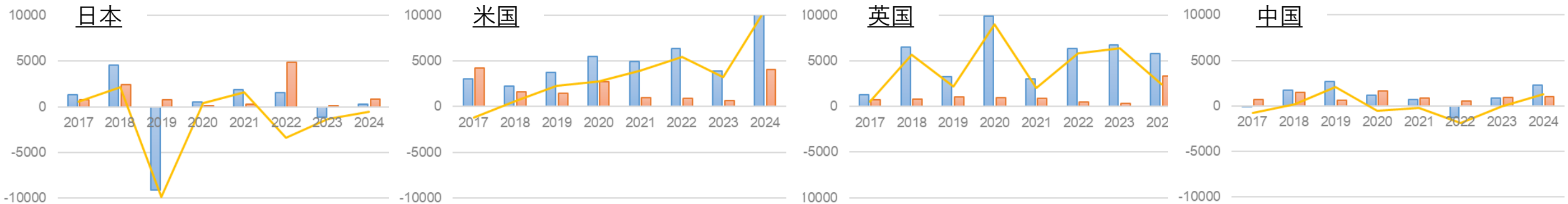
- ・現地人材の育成や技術移転を長期的に実施
- ・サウジの産業高度化と自立的成長を支援



長期的な事業継続・コミットメント

- ・短期的な商機ではなく、長年にわたる事業継続
- ・サウジの発展に寄り添い、共に成長

④主要国の対サウジ FDIフロー比較（2017-2024）



71年の信頼関係を軸に「協働するパートナー（拠点）」としての期待

11 未来へ：直近のビジネス機会から、その先へ

2026

LEAP・WPC・FII



関係構築の機会

2027

AFCアジアカップ



スポーツ交流

2030

リヤド万博



国家プロジェクト需要

2034

FIFAワールドカップ



観光・エンタメ経済の拡大

毎年の大型イベントを活用した関係構築と、次の10年のビジネスへ